

ポイント



◎失敗や途中でくじけたことも書いてみよう！

レポートに「自分らしさ」があることが大切です。そのために、テーマと自分とのつながりや自分の体験を入れるといきいきとしたレポートになるでしょう。

◎だれに伝えたい？を考えて

子どもや家族に伝えるために書くと、分かりやすいレポートになるでしょう。そのためにはどんな工夫をしたらよいか考えることが大切です。文章だけでなく、自分で作った図やイラスト、写真などがあるとすてきですね。図やイラスト、写真を入れるポイントは『必要なものだけ、わかりやすく』！

図書館の本はどうやってならんでいるの？（本の分るい）

読みたい本や調べたいことがのっている本をさがすとき、本のならびかたを知っているととてもべんりです。

本の背表紙には、数字とカタカナの書かれたラベルが貼ってあります。これを**せいきゅう記号**といいます。図書館の本は、このせいきゅう記号の番号順にならんでいます。また、数字のことを**分るい番号**といいます。

4 8 6
カ

これはどんな本かな？

図書館では、本のないうが同じなかまどうしを、まとめてならべられるよう『日本十進分類法』という決まりにしたがって分るい番号がつけられています。

本のラベルに書かれている数字は、本のないうによってそれぞれつけられています。

つまり、この分るい番号は、本の住所のようなものといえます。

この分るい番号のさいしょの1けた目でその本がだいたいどのようなかわかります。

※右上の486/カという請きゅう記号は、4→自然科学のなかの、8→動物学のなかの、6→昆虫類と分るいされていることがわかります。

日本十進分類法（にほんじっしんぶんるいほう）

すうじ	どんな本	すうじ	どんな本
0	百科事典・図書館に関する本・コンピューター	5	機械・電気・生活・手芸・料理
1	ものの考え方・道徳・宗教	6	園芸・農業・ペット・交通・のりもの
2	歴史・伝記・地理・旅行	7	絵・音楽・スポーツ・あそび
3	社会・福祉・学校・むかし話・ことわざ	8	国語・外国語・作文・手紙・辞書
4	算数・理科・植物・動物・体や健康	9	詩・俳句・短歌・日本や外国の物語・全集



図書館を使った調べる学習コンクール レポートのすすめ方ガイド



こどもワラオ

大田原市立図書館

1

『テーマ』をさがそう！

まず、自分が調べてみたいテーマをさがします。何の、どんなことについて調べたいのか？

それはなぜなのか？をはっきりさせましょう。

自分のまわりに「なぜ？」「どうして？」と思うことはありませんか。ちょっとした疑問など調べてみると楽しいことがたくさんあるはず。自分の目と耳のアンテナをいっぱいはってさがしてみてください。

◎最初は「〇〇について」でもかまいません。

進めていくうちに「〇〇はなぜなのか？」という疑問になればすばらしいです。

- たとえば「星について」→「星に色のちがいがあるのはなぜ？」
- たとえば「牛について」→「牛がいつも口をもぐもぐさせているのはなぜ？」
- たとえば「人の体について」→「長い時間正座すると足がしびれるのはなぜ？」

◎テーマが決まらないときに図書館でやってみることができる、ちょっとしたコツ

- 10冊をてきとうに手にとってみます。その10冊には、ふだんあまり手にとらないような本もふくめましょう。もくじやカバーのそでの文章を読んで、気になるものをテーマに決めましょう。
- 百科事典や図鑑をてきとうに開いてみて、気になる見出しがあったらそれをテーマに決めましょう。

◎ひとつひとつ納得しながら先に進めることが大切です。

「なぜ？どうして？知りたい！」→調べる→「わかった！でも〇〇はなぜ？」→調べる→「わかった！」とくり返されるとすばらしいです。

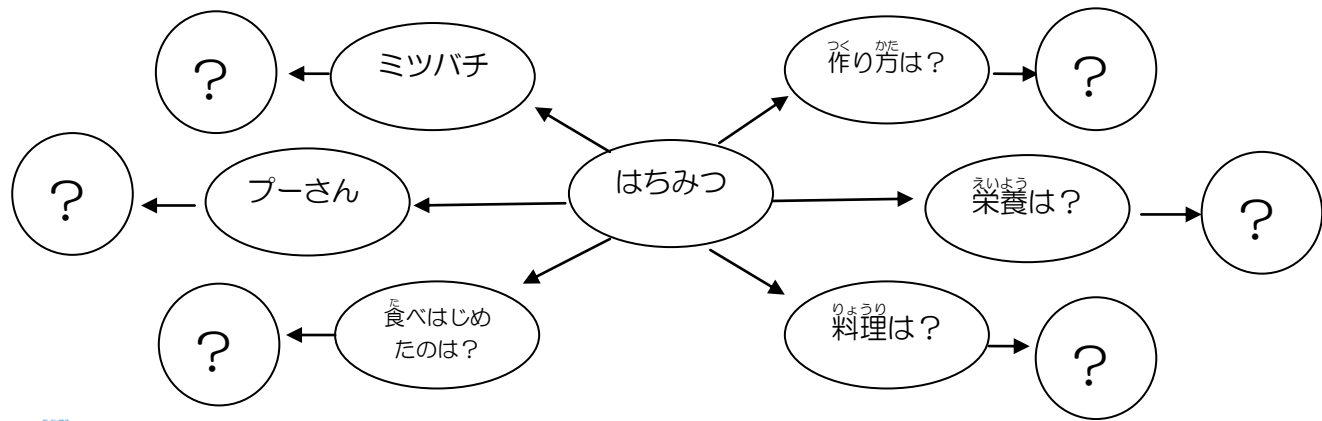
2 『テーマ』をさらにしぼりこんでいこう！

テーマが決まったら、そのことの中でとくに調べたいと思うことを考えます。調べたいことがはっきりしていると、上手に調べものを作ることができます。

◎連想ゲームでテーマをしぼってみましょう。

たとえば本棚にある『クマのプーさん』に目がとまったとします。そこから連想ゲームをはじめます。プーさんとくればはちみつ・→ミツバチ？ミツバチはどうやってはちみつを作る？はちみつをつかった料理は？はちみつの栄養は？はちみつはいつから食べられている？

頭の中で考えていることをどんどん広げていくと、どんどんテーマがしぼられていきます。頭の中で考えたことを紙に書いていきましょう。この枝の先に何かつなげられないかな？新しい枝が作れないかな？と考えながら書いてみましょう。これをウェビングマップといいます。



3 いよいよ調査・実験・観察スタート！

図書館で調べたいことが書かれている本をさがして情報を集めよう！

「資料を見る」→「関係する場所へ行き調査する」「実験や観察をする」→新たな発見！→「また資料に戻って調べ、次に進む」ことが大切です。

◎情報を集めよう

- 《印刷メディア》本・ファイル資料・新聞・雑誌・パンフレット・リーフレットなど
- 《音声・映像メディア》テープ・CD・写真・スライド・ビデオ・映画など
- 《電子メディア》インターネット・DVD・CD-ROMなど
- 《人》実験・観察・インタビュー・アンケートなど

◎必ず2つ以上の資料から調べ、その違いを比べよう

「本」と「本」、「本」と「インターネット」、「本」と「実験」など、情報の元を比べてみるのが大切です。一冊の本に書かれていることが正しいとはかぎりません。とくにインターネットは正しい情報か分からないことも多いです。いろいろな情報を元に調べていくと良いでしょう。

◎調べるときに使った資料のタイトルはメモしておきましょう。レポートには必ず調べるのに

使った資料のタイトル・作者・出版社などを書かなくてはなりません。資料を写すときは「必要なだけ」「最低限に」「出典を明らかにする」の3原則を守りましょう！



【出典】とは引用した文章などの出どころや書名のこと

- ・ 図書館の表示・・・著者名、「タイトル」、出版社名、出版年、引用したページ
- ・ 雑誌の表示・・・著者名、「記事のタイトル」、雑誌名、巻号、出版年、掲載ページ
- ・ 新聞記事の表示・・・「記事のタイトル」、新聞紙名、発行年月日、朝夕刊の別、掲載面
- ・ インターネット・・・著者（制作者）名、「タイトル」、URL、アクセスした年月日
- ・ 写真・・・撮影日時、撮影者（家族であっても必要です）

【引用】とは他人の言葉や文章の一部を引いてきて、自分の文章の中で使うこと

- ・ 引用するときは、自分の文章と区別するために、写した文章を「 」や“ ”などでくくります。または、引用した文に番号をつけて、「参考文献リスト」にその番号を書きそえてください。

◎本をさがしてみよう

図書館にあるたくさんの中の本の中から、読みたい・調べたい本をさがしたいとき、その方法はいろいろあります。

1. 直接本棚からさがす
図書館の本は分るい番号順にならんでいます。調べたいテーマが決まっているときは直接本棚にさがしに行ってみましょう。同じような内容について書かれた本や、同じ作者が書いた本がまとまってあります。
2. 図書館の検索機でさがす
図書館にある検索機を使えば、本のタイトルや作者、キーワードなどから本をさがすことができます。使い方が分からないときは図書館の人に聞いてくださいね。
3. 調べるときに役立つ本
百科事典や図鑑、年鑑など、調べるための本も見てください。
4. 図書館の人に聞く
本が見つからない、さがし方や本の場所がよく分からないときなど、図書館の人に聞いてください。
☆夏休み期間中、大田原図書館のレファレンスカウンターでは、調べる学習の相談がいつでもできます。

4 レポートをまとめます。レポートは「自分の言葉」で書こう！

本を丸写ししたり、インターネットの情報をそのまま貼ったりしても、自分のものではありません。主人公は「自分自身」です。自分の考えと他の人の考えを区別し、調べたことを自分の言葉で表現しましょう。

◎まとめ方はとても大切です

- ①「なぜ、そのことを調べたいと思ったのか」、「なにをどうやって調べたか」を書こう。
- ②自次を作ろう。調べたことを説明しやすいように並べかえて、読む人に分かりやすい組み立てをめざそう。
- ③どこで何を調べたか、まとめよう。調べるために行った場所や話を聞いた人、利用した図書館を書きます。
- ④「調べて分かったことに対して、どう考えたか？」を書こう。調べる前と調べ終わって考えが変わった点も書こう。
- ⑤タイトルは大事です！自分のテーマが伝わるようなタイトルを考えよう。デザインや見せ方を工夫して楽しい表紙を作ろう。自分の名前、学校名・学年を書くのを忘れずに！